

すどう美術館の活動

銀座から小田原に移転したすどう美術館は、出前美術館、海外のアートフェア、東日本げんきアートプロジェクト、アーティストインレジデンスの企画、実施等、さらに多彩な活動を多才な人達と繰り広げてきた。どの企画もゼロからの立ち上げで、とりわけ東日本げんきアートとアーティストインレジデンスの活動は記憶にも新しい。

東日本げんきアートの活動の立ち上げでは副館長が中心となり、被災地の関係機関に連絡を取り、早期に視察に訪れ、その企画を練り、実行していった。アートの活動を行うのに、少し時間がかかるとみると、現地のニーズを考え、湯たんぽや本を集めて、現地に送ることも行った。その後もさらに副館長は綿密に展示計画や広報計画を立て、必要とあらば、どこにでも連絡を入れ、宿泊先も確保し、展覧会、ワークショップ、コンサートなどを実行だったのである。

あの瓦礫の中での活動とあの宿泊先での雑魚寝の大変さは忘れることはあるまい。アートにはいろいろな可能性があることが現地での様子を見て、私の中で確信となつた活動であった。この活動の中で、すどう美術館のメインコレクションである菅創吉の展示を行い、館長の講演があった。ここはすどう美術館だと私は思った。

アーティストインレジデンスでは館長が企業等から協賛を頂くのに、奔走されていた。ひとえに参加作家やこの活動に関わる人達のためにだ。ヨーロッパ等のレジ

Impression of residency

Kate Ali (U.S.A.)

The ARIQ residency was an inspiring and culturally rich experience. It was a privilege to have worked next to artists from both Japan and the world at large. I will always remember Odawara, Japan as a place full of kind people, beautiful scenery and delicious food. Many thanks to Mr. and Mrs. Sudoh, the Sudoh Gallery staff and their volunteers for all that they did to make the residency a success.

展覽會 info

すどう美術館コレクション展 1
2月2日(火)～14日(日) 月曜休館
11:00～18:00(最終日～17:00)

すどう美術館コレクション展2
2月23日(火)～3月6日(日) 月曜休館
11:00～18:00(最終日～17:00)

3回目のARIOを終えて、今思うひとつ
の希望は、このレジデンスの経験が招待作家の皆さんの中で、ひとつひとつの個性となつて、新しいなにかに育つていくことです。レジデンスの本當の意味での成果は、そこにあると思います。
そして、アートを通じて出逢えた皆との10日間が、私の中にも新たな種を落としてくれた。ようう感じています。

佐部利典彦

デンスでは、強力なスポンサーが公的な資金、制作場所、食事場所、宿泊所、展示場所が確保されて行われているところが多い。日本でも90年代に入ってから各地でアーティストインレジデンスが行われてきたのだが、その条件を満たしていて万全の状態で活動ができているところはないのではないかと思う。

それでも小田原のレジデンスでは多くの方の協力のおかげで、小田原らしいレジデンスになっていると思う。私は、実行委員会の委員および作家として、今までの3回とも参加させていただいた。やはり作家としての参加が充実していた。普段の日常を気にすることなく制作に没頭し、世界の作家と意見をたたかわす。そして何が生まれてくるのか。アドレナリンが出まくるのである。アドレナリンが出まくるのは、実行委員での参加でもそうである。事実、前回のレジデンスが終わってから私は制作が進んでいる。小田原のレジデンスでは、それを行っていた地域全体がすどう美術館になったと思った。すどう美術館の真骨頂は「おもてなし」なのである。その思いを汲んで、企画の実現へと奔走していたのは高橋学芸員である。展覧会以外に数々の仕事を併行して、継続的に行ってきた。ただただ感謝しかない。あーそんなことを書き連ねてたら泣きそうになってきた。我々は、すどう美術館の活動のおかげで、ほんとによい(?)人達と出会うことができ、おかげで孤独な制作を続けることができているのである。

富士山と尊徳記念館

杉本裕子

昨11月、小田原のアーティストインレジデンスに招待され、10日余りの小田原滞在をした。いつまでも忘れないがこみあげてくる。

おもいを書こうとして、何枚もの紙をすてて・・・。ほんとうにみなさんにはありがとう伝えたい。あの富士山の見える広いフロアで、お昼にお弁当をみんなでいただいた。

1日の過ごし方—今日何をして・・・そして一気に来たのです。

人に会いたい、絵を描きたい、見てほしい、認めてほしい、海外の人ともっと知りあいたい、小田原であそびたい、作家同志知りあい友達になりたい、おみやげ買いたい、カラオケとか遊びたい。結局不器用なメンバーで、それぞれが全部の中で疲れてしまい、逃げ出なくなりました。

じくなりました。もとの地味なくらしが恋しくなって・・・。もともとひとりでさみしく生きてきた不器用な人間です。だから絵を描いているのです。あの時からその事がよくわかって私達はみんなのことが、互いのことが、大好きになりました。不器用な要領の悪い、やさしい人間の集まりだったのです。どちらかというと、少しひかえめで、遊んだりできなくて、自分自身のことへもテキトウで・・・。ガンガン自分勝手に作品をつくる事もあったのでしょうにそういう人も居なくて、まわりに気を使いながらささやかに小さく創作をしました(助けあって)。あまりにも毎日経験したことのないような事ばかり、人にしてもらつてばかり・・・。

最後の日にすどう美術館に飾られたみんなの絵を見た時に、上品さを感じました。

「私が」「私が」ではなくて、とてもひかえめで、目立たない様にそこに居た。みんなの画。それが ARIO を通して私達がみなさんから学んだことではないでしょうか。

子さんのことによってしょうが。
大きくて静かに人のために働く。気がつけ
ばこうしてここに全てそんな生き方のおくり
ものをいただいた。